

一液弱溶剤型アクリルシリコン樹脂塗料

HNTシリコンワン

セラミック配合

① 高耐候性 (耐候形1種準拠)

耐候性に優れた自己架橋形アクリルシリコン樹脂を使用していますので、太陽光、酸性雨などに優れた耐久性を発揮します。

② 低汚染性

セラミック配合により汚れにくい塗膜を形成し、長期間にわたって建物の美観を保ちます。

③ 一液で優れた仕上り

優れた作業性で、肉持ち・とまりの良い高光沢の塗膜を形成します。

④ 幅広い塗装適用

弱溶剤タイプですので、強溶剤系塗料と比べ下地を侵す心配がないため、幅広い屋根、内外壁に対応します。

⑤ 環境配慮

鉛・クロムを使用していない、環境に優しい塗料です。

容量・標準塗装面積

品名	容量	標準塗布量
HNT シリコンワン	15kg	0.12~0.15kg/m ² ・回 ×2回塗り 50~62m ²
HNT シリコンワンプライマー	14kg	0.15~0.2kg/m ² ・回 ×1回塗り 70~93m ²
HNTシリコンワン サビ止めプライマー (グレー:N8近似)	16kg	0.12~0.16kg/m ² ・回 ×1回塗り 100~133m ²

適応下地

- ① 建築物内外壁面の保護および美装
コンクリート・モルタル・PCa板・ALC板・
スレート板・窯業系サイディングボード・
各種旧塗膜
(※フッ素樹脂系及び無機塗料は除く)
- ② 鋼板屋根面
トタン・折板等
窯業系屋根面
コロニアル・モニエル瓦・スレート・セメント瓦

標準色

白、指定色

※製品都合により納期に時間がかかります。

標準塗装仕様

内外装

■新設地下面(コンクリート、モルタル、窯業系サイディングボード)

工程	品名	標準使用量(kg/m ² 回)	希釈剤	塗回数	上塗可能時間(23℃)	備考
1	素地調整					●素地は十分に乾燥させて下さい(pH9.5、含水率8%以下になるように20日以上養生)。 ●素地のレイタンス、エフロレッセンス、汚れは完全に除去し、素穴、不陸、目違いなどはあらかじめポリマーセメントモルタル等の下地調整剤で補修して下さい。
2	下塗り	HNTシリコンプライマー※1	0.15~0.2	無希釈	1	3時間~3日 中毛ローラー・ハケ
3	上塗り	HNTシリコンワシ	0.12~0.15	塗料用シンナーA 5~15%	2	4時間~3日 中毛ローラー・ハケ・エアレス

※1 吸い込みの激しい場合は、プライマーを2回以上濡れ色感が出るまで塗装して下さい。※金属部材には、HNTシリコンワシ止めプライマーをご使用下さい。

【既存塗膜がある場合】

工程	品名	標準使用量(kg/m ² 回)	希釈剤	塗回数	上塗可能時間(23℃)	備考
1	素地調整					●脆弱層、密着不良塗膜及びゴミ、ホコリ、風化物、コケ等は、電動ブラシ、ワイヤーブラシ等で取り除き高圧水洗(10~15MPa)で洗浄して下さい。 ●高圧水洗ができない場合は、水を流しながらワイヤーブラシ等を使用して入念に洗浄して下さい。 ●高圧水洗で落としきれない、旧塗膜の密着不良部及び錆発生部分は、電動工具、手動工具を用いて劣化した塗膜を除去し、プライマーを塗布して下さい。発錆部は、2種ケレンを行い、HNTシリコンワシ止めプライマーを塗布して下さい。 ●素地の素穴・クラック・不陸などは、あらかじめセパティーフイラー耐溶剤型などで補修し、平滑にして下さい。
2	上塗り	HNTシリコンワシ	0.12~0.15	塗料用シンナーA 5~15%	2	4時間~3日 中毛ローラー・ハケ・エアレス

屋根

■鋼板屋根・トタン

工程	品名	標準使用量(kg/m ² 回)	希釈剤	塗回数	上塗可能時間(23℃)	備考
1	素地調整					●旧塗膜の密着不良部・ゴミ・ホコリ・コケ等は、高圧水洗(10~15MPa)にて取り除いて下さい。 ●高圧水洗で落とすきれない、旧塗膜の密着不良部及び錆発生部分は、電動工具、手動工具を用いて劣化した塗膜を除去し、発錆部は、2種ケレンを行って下さい。
2	下塗り	HNTシリコンワシ止めプライマー※1	0.12~0.16	無希釈	1	3時間以上 中毛ローラー・ハケ
3	上塗り	HNTシリコンワシ	0.12~0.15	塗料用シンナーA 5~15%	2	4時間~3日 中毛ローラー・ハケ・エアレス

※1 エッジ部や凸部等の透けやすい部分は、下塗りを2回行って下さい。

■コロニアル・モニエル瓦・スレート・セメント瓦

工程	品名	標準使用量(kg/m ² 回)	希釈剤	塗回数	上塗可能時間(23℃)	備考
1	素地調整					●脆弱層・密着不良塗膜及びゴミ・ホコリ・風化物・コケ等は、電動ブラシ・ワイヤーブラシ等で取り除き、高圧水洗(10~15MPa)で洗浄して下さい。 高圧水洗ができない場合は、水を流しながらワイヤーブラシ等を使用して入念に洗浄して下さい。
2	下塗り	HNTシリコンワシ止めプライマー※1	0.15~0.2	無希釈	1	3時間~3日 中毛ローラー・ハケ
3	上塗り	HNTシリコンワシ	0.12~0.15	塗料用シンナーA 5~15%	2	4時間~3日 中毛ローラー・ハケ・エアレス

※1 吸い込みの激しい場合は、プライマーを2回以上濡れ色感が出るまで塗装して下さい。※フックボルト・棟包等の金属部材には、HNTシリコンワシ止めプライマーをご使用下さい。
※コロニアルの水切り部で上下の瓦に隙間がないと、敷板の腐敗や雨漏りの原因になります。下塗り後にタスペーサーを使用し隙間を確保するか、塗装後、塗料で隙間が接着している箇所は、スクレーパー等で縁切りをして下さい。

施工上の注意事項

【内外装】

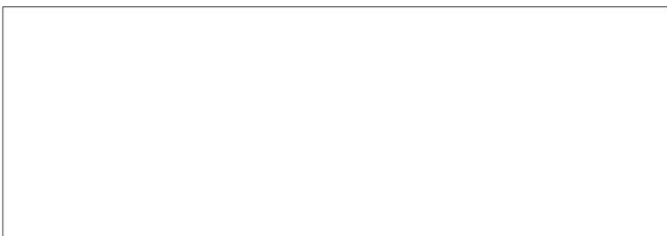
1. コンクリート、モルタルはpH9.5、含水率8%以下になるように20日以上養生し充分乾燥させて下さい。
2. 下地の密着不良部、脆弱層、風化物、表面の油、ゴミ、ホコリ、コケ等は、高圧水洗(10~15MPa)、サンダー、ワイヤーブラシ等にて取り除いて下さい。
3. ALC面、多孔質下地等の粗面、その他素穴等、下地に問題がある場合は、必ずポリマーセメントモルタルで処理して下さい。
4. 下地モルタルの浮き部はハタリ後、ポリマーセメントモルタルにて処理して下さい。または、エポキシ樹脂を注入し、ピンニングして下さい。標準としてピンニングは、約25穴/m²です。
5. 幅0.3mm以上のクラック部はリカット後、フロンシーリングを充填し、ポリマーセメントモルタルにて処理して下さい。
6. 幅0.3mm以下のクラック、素穴、段差の処理は、ポリマーセメントモルタルにて補修して下さい。
7. 爆発して内部の鉄部が露出している箇所はケレンし、防錆処理後、ポリマーセメントモルタルを充填し、補修して下さい。
8. 窓まわり及び目地部の劣化している既存シーリングは撤去し、フロンシーリングにて打ち直して下さい。
9. サッシまわりの欠損部は、ポリマーセメントモルタルにて表面を平滑にしてから、フロンシーリングにて処理して下さい。
10. シーリング材の上に本材を塗布する場合、使用するシーリング材は、1液ウレタンノンブリードタイプ(フロンシーリング)、2液ウレタン系が好ましいです。シリコン系は密着不良、油性系はちぎれ、1液ウレタン系、ポリサルファイド系、ブチル系はタックが発生し、汚染の恐れがあります。
11. 動植物に影響を及ぼす可能性がありますので、特に屋内の場合施工時及び施工後の換気を充分に行って下さい。
12. 気温5℃以下、湿度85%以上の条件および強風(風速5m/s以上)時の施工は、塗膜状態に悪影響を与える恐れがありますので施工を避けて下さい。

【屋根】

1. 素地は十分に乾燥させてから施工して下さい。
2. 被塗物の表面温度が5℃以下、湿度80%以上の場合は、施工を避けて下さい。
3. 塗装後、翌日までに降雨、降雪等の心配がある場合は、施工を避けて下さい。
4. 冬期の施工は夜露、結露の発生が考えられますので、午後3時以降の作業は避けて下さい。
5. 夜露、高湿度等で被塗物が結露している場合は、ウエス等拭き取り、十分に乾燥させてから塗装して下さい。
6. 旧塗膜の密着不良部、表面の油、ゴミ、ホコリ、コケ等は、高圧水洗(10~15MPa)にて取り除いて下さい。
7. 高圧水洗で落とすきれない、旧塗膜の密着不良部及び錆発生部分は、電動工具、手動工具を用いて劣化した塗膜を除去し、発錆部は、2種ケレンを行って下さい。
8. 水洗後や降雨、降雪後は十分に下地を乾燥させて下さい(窯業系屋根:夏期2日以上、冬期3日以上)。
9. 油分などの付着物は、溶剤で拭き取り、清浄な面にして下さい。
10. 素地調整は、耐久性を高める重要な工程なので、入念に処理して下さい。
11. 旧塗膜が全面に残っている場合は改修は、事前に塗膜の種類・状態を確認し、密着性の確認を行って下さい。

12. 旧塗膜の種類や劣化状態によっては、溶剤の影響により旧塗膜のチヂレや再溶解を生じることがあります。事前に試験塗りを行って下さい。
 13. 1.1及び1.2及び旧塗膜が2液反応型シリコン系又はフッ素系の場合は、塗装しないで下さい。
 14. 旧塗膜が2層以上ある場合は、塗膜欠陥の原因となりますので、旧塗膜を完全に除去して下さい。
 15. エアレス塗装など、吹付け塗装の場合は、塗料の飛散に充分注意して下さい。付近の建物、自動車等はあらかじめ養生して下さい。軒先等は圧力を低下させ、あて板などで養生し、塗装して下さい。
 16. 塗料のミストが自動車、ガラス、アルミサッシ等に付着した場合は、すぐにウエス等で拭き取って下さい。特に自動車に付着した場合は、ただちに水洗いして下さい。
 17. 乾燥した塗料のミストは、ラッカーシンナー等で傷つけないように拭き取って下さい。
 18. 鋼板屋根の折り曲げ部や継ぎ目、凸部等は塗膜が薄くなりやすいので、事前に拾い塗りを行って下さい。
 19. 積荷の荷重を受けやすい軒先部やあて板、瓦の凸部等は、耐久性を向上させるために増し塗りを行って下さい。
 20. 下塗材の標準使用量および塗回数は、屋根材の形状、素地の劣化具合により増減する場合があります。
 21. 塗料は、ご使用前に電動攪拌機等で充分に攪拌し、均一にしてから塗装して下さい。
 22. 棟包、ボルト等の金属部材には、HNTシリコンワシ止めプライマーをご使用下さい。
 23. 軸梁瓦の場合は、エクセルプライマー-IIをご使用下さい。
 24. 標準使用量、塗装間隔及び規定塗り回数を超えて、一度に厚塗りしないで下さい。標準使用量、塗装間隔及び規定塗り回数で仕上げの方が、塗り上がり、耐久性とも向上します。
 25. 各工程の塗装間隔は厳守して下さい。また、夜露が早く降りる地域では、塗装を早めに終え、乾燥時間を確保して下さい。
 26. 吸い込みの激しい場合はプライマーを2回以上濡れ色感が出るまで塗装して下さい。プライマーは、乾燥後、養生テープ等で浸透性を確認し、浸透不足等による表層剥離を生じた場合は、再度プライマーを塗装して下さい。
 27. 上塗りの1回目塗装後に、違う色相を塗装しますと、ブリードによる変色を生じることがありますのでご注意ください。
 28. シンナーでの希釈しすぎは、グレ、隠れ不足、つや不良などを生じますので注意して下さい。
 29. 水切り部で上下の瓦に隙間がないと、敷板の腐敗や雨漏りの原因になります。下塗後にタスペーサーを使用し隙間を確保して下さい。塗装後、塗料で隙間が接着している箇所は、スクレーパー等で縁切りをして下さい。
 30. 塗料を保管する場合には必ず直射日光の当たらない、湿気の少ない屋内に保管して下さい。保管や施工時の換気、火気には充分注意して下さい。
- ※建物の構造、塗装部位(雨のかりがかりが少ない面、汚れが多量に集まる面等)によっては、低汚染効果が発揮されないことがありますのでご了承ください。
※取り扱以上の注意については、容器に表示された注意事項をご参照下さい。
※製品の詳細な内容が必要な時には、安全データシート(SDS)をご参照下さい。

●お問い合わせは.....



東日本塗料株式会社

本社/〒124-0006 東京都葛飾区堀切3-25-18 TEL.03(3693)0851(代) FAX.03(3697)2306
 埼玉工場/〒347-0017 埼玉県加須市南篠崎1-13 TEL.0480(65)1515(代) FAX.0480(65)1518
 仙台営業所/〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野1-4-20 TEL.022(291)7372(代) FAX.022(291)7320
 新潟営業所/〒950-0871 新潟市東区山木戸3-7-9 TEL.025(273)5749(代) FAX.025(274)6730
 静岡営業所/〒422-8037 静岡市駿河区下島128-1 TEL.054(238)8061(代) FAX.054(238)8063
 北海道出張所 TEL.03(3693)0851 FAX.03(3697)2306



※製品改良のため、予告なく仕様、性能、カタログ内容を変更する場合があります。 URL <http://www.hnt-net.co.jp>
 ※諸官公庁等の特記仕様がある場合には、それを最優先して下さい。

CATALOG NO.2 '20.09.3.000